第３学年２組　体育科　学習指導案

指導者　清水 建見

単元名「 わたして，もらって，ねらえ！ターゲット！ 」

「E　ゲーム」ア　ゴール型ゲーム

１　単元について

（１）教材観

　ハンドボールは，全員で攻めたり守ったりしながら攻守が入り交じり，一定の時間内で得点を競い合うことを課題とした運動である。攻撃時には，ボールを手で操作しながら，ボールを持っていない人が動き，チームメイトにパスをしたりパスをもらったりしてシュートにつなげていく。守備時には，全員でゴールターゲットを守ったり，パスをカットしたりしながら攻撃側の得点を防ぐ。このような攻撃と守備がゲーム内で激しく入れ替わりながら進行していく。一方で，運動が苦手な児童やボール操作が苦手な児童にとっては，上手にボールを投げることができなかったり，パスキャッチができなかったりするなど，基本的なボール操作が身についていないと楽しさを感じることができない運動である。

ボール運動の「知識及び技能」の系統を見ると，低学年では簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって，易しいゲームをすること。中学年では，基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって，易しいゲームをすること。高学年では，ボール操作とボールを持たないときの動きによって，簡易化されたゲームをすることが求められている。

（２）児童観

　ゴール型ゲームのボール運動は，チームでボールをつなげながら攻防する中で，得点を競い合うことに楽しさを感じることができる運動である。また，得点をとることができたり，上手にパスがつながったりするときなどには喜びや達成感を味わうことができる運動でもある。そのため，個人の技能の高まりだけではなく，チームの友だちと協力する中で生まれる一体感も味わうことができる。一方でボール操作が苦手な児童にとっては，上手に投げられなかったり，パスキャッチができなかったりするなど楽しさを感じることが難しいと考えられる。そのため，ボールに慣れる運動や基本的なボール操作の練習をスモールステップで重ねながら，基本的な技能を身につけていくとともに，ボールの種類やルールの工夫を行い，楽しみながら上達できるようにしていくことが求められる。

（３）指導観

　本単元では，ハンドボールにつなげるためのゴール型ゲームとして，２つのサークルを用いた簡易的なゲームを行う。ゲームをしていく中では，誰にでもシュート機会があるハンドボールの特性を生かし，「得点できるかもしれない」という期待感や，得点したときの喜びや達成感を味わうことができるようにしていきたい。そのために，ボールに慣れる運動や基本的なボール操作の練習を重ねていくようにする。また，全員の児童が積極的にゲームに参加するためには，基本的なボール操作のほかにボールを持たないときの動きが重要になる。基本的なボール操作の習熟のために，ボールに慣れる運動を行い，基本的な技能の習熟を図っていきたい。ボールを持たないときの動きについては，どうすればシュートがしやすくなるのか，パスが回りやすくなるのかを，ボールを持たないときの動きと関連させながら考えさせるようにしていく。

２　児童の実態

　本学級の児童は，男子１５名，女子１７名の計３２名である。（内２名が特別支援学級所属）男子女子ともに休み時間は外で遊ぶ児童が多く，男子は主にサッカーなどのボール運動や鬼ごっこ，女子は遊具を使った遊びや一輪車，竹馬，鬼ごっこをしながら遊んでいる。また，週に１回，クラスのレク係が企画した遊びをしており，特にドッジボールをすることが多い。運動が苦手な児童もいるが，苦手な運動にも一生懸命取り組み，体を動かしている。

　本学年の児童は１・２年生で，ボールを使った運動としてラインサッカー，ボールを投げる的当て，ドッジボールを体育の授業の中で行ってきた。授業の中で，ボールに親しむことやチームの中で作戦を考えたり，アドバイスをしたりすることも経験しているため，苦手な児童でも教えてもらいながら体育の授業に取り組み，意欲的に活動する姿が見られる。

　また，本校では「対話」を大切にしながら授業を行っている。分からないことや，できないことを友だちに聞いたり，感じたことや考えたことを友だちに伝えたりという活動は日常的に行っている。体育の授業でも，どうしたら上達することができるか，どうしたらチームが勝てるようになるのかなどについて自己内対話と他者との対話を繰り返し，クラス全員で互いに高め合う姿が見られる。

【体育の授業に関するアンケート結果（３０名実施）】

○体育の授業は好きですか





　アンケートに答えたほとんどの児童が体育の授業は好きと答えた。好きではないと答えた児童は，「苦手だから」「疲れるから」という理由だった。本単元では，基本的な技能を身につける運動を繰り返し行い，苦手な児童でも「できた」という達成感を得られるようにしながら，体育の授業を楽しめるよう工夫していきたい。

○今までの体育の授業でうれしかったことなど思い出に残っていることは何ですか。

・登り棒で一番上までいけた。

　子どもたちはできないことができるようになったときに喜びを感じていることがわかった。本単元でも繰り返しの練習の中で「できた」という感覚を味わうことができるようにして，体育の楽しさや喜びを感じることができるようにしていきたい。

・逆上がりができてうれしい。

・ドッジボールで勝てた。

・みんなが拍手をしてくれた。

・できないことができるようになった。

○体育の授業で大変だな，嫌だなと感じるのはどんなときですか。

・跳び箱ができないからいや。

　子どもたちは苦手なことやできないことに抵抗感を感じていることがわかった。そのため，本単元ではスモールステップで少しずつできることを増やしていくようにしたい。また，試合の勝ち負けに拘っている児童も多く見られた。そのため，今回は試合の勝敗よりも「自分ができるようになったこと・上達したこと」に目を向けるようにしていきたい。そしてけが防止のため，場の安全や周りの安全について気をつけるとともに，安全の指導も積極的に行っていきたい。

・水泳は泳げないからいや

・苦手なことをやる授業がいや。

・試合に負けるといや。

・けがをしたときがいや。

【ボール運動に関するアンケート結果（３０名実施）】

○ボール運動は得意ですか。

○ボール運動は好きですか。



　アンケートに答えたほとんどの児童がボール運動は好き，そして得意と答えた。理由は「投げる・蹴る・キャッチするが楽しい」，「ドッジボールが好きだから」という2つの理由が大半だった。好きではないと答えた児童が1人いたが，「苦手だから」という理由だった。またボール運動は好きだが，苦手と答えた児童が2人いた。児童の「好き」「楽しい」という気持ちを大切にしながら，本単元でも授業を進めていくようにしたい。また，好きではない，得意ではないと答えた児童には，スモールステップで課題に取り組み，達成感や喜びを感じさせるようにしていきたい。

○１週間の中でボール運動をするのはどのくらいですか。（体育の授業は除く）



　多くの児童がボールを使った運動や遊びを週に１日以上していることがわかった。クラスの中にはサッカーやバスケットボールを習っている子が多く，運動をする習い事をしていない児童も，クラス内のレク等でドッジボールをしている。そのため，児童は遊びの中でもボールに親しんでいるが，ドッジボールでは投げることやキャッチすることよりも逃げることに一生懸命な児童もいる。ボールに対する怖さもあると考えられるので，本単元で扱うボールは当たっても痛くなく，苦手な児童でも投げやすいボールを使用したい。

１学期から，ボールを投げる力の向上に関わって短い時間ではあるが，毎日の朝の会でタオルを使った運動をしている。結び目を作ったタオルを手に持ち，大きく回したり，八の字に回したりする運動である。毎日取り組んでいるので，ドッジボールなど，ボールを投げる際にボールの投げ方が大きくなったり，投げる力がついてきたりしているように感じる。また，タオルを回すときは，音楽をかけて回しているので，児童はリズムに合わせたり楽しんだりしながら運動をしている。

３　研究主題との関わり

主体的に学び続ける児童の育成

～運動やスポーツの楽しさや喜びを味わえる対話型授業を通して～

1. 重点目標を達成するための手立て

重点目標①「運動やスポーツの楽しさや喜びを味わうことのできる児童の育成」に向けて

手立て①【基礎感覚づくりを継続的に行い技能の向上を図る。】

ハンドボールを行うためには，ボールを投げる，捕るなどの基本的なボール操作の技能が必要になる。児童の中には，ボールの扱いに慣れていない児童もいるため，単元を通して様々な動きをつけたボールに慣れる運動を繰り返し行うようにしたい。また，アンケートにもあったが，児童は，「できなかったこと」が「できるようになる」ことに喜びを感じる。繰り返しの練習を通して，投げる・捕るなどの基本的な技能の定着を図り，「できた」という実感を持たせるようにしたい。

手立て②【用具を工夫し，意欲的に活動できるようにする。】

〈ボールの工夫〉

　　　子どもたちが片手でも持つことができる「ソフトハイバウンズボール」を使用する。スポンジ部分が柔らかいため，当たっても痛くはなく，また，よく跳ねるため，バウンドをさせながら相手にパスをすることができる。またボールの重さもあり，ボールが当たれば段ボール（的）が落ちるまたは動くため，速いボールを投げなくても段ボール（的）を落とすことができると考える。速いボールを投げることができない児童でも得点をとれるチャンスがある「ソフトハイバウンズボール」を使い，得点をとる喜びを感じるようにしていきたい。

〈ゴール（的）の工夫〉

ボール操作に慣れていない児童にとって，相手チームが目の前にいる中で的をめがけて投げることは難しいと感じる子もいるだろう。そのため，的に当てるのが難しくならないように大きめの的（段ボール）を用意する。的に当たりやすくすることで，児童がよりゲームを楽しむことができると考える。

また，ゲームの中において段ボールを積み直す時間を短縮するため，段ボールに色ガムテーム（目印）を貼る。さらに，児童が見てすぐにわかるように段ボールの上の面だけに色画用紙を貼るようにする。準備ではなく，ゲームの時間を多くすることも，児童が体育の時間を楽しむ一因となるだろう。

手立て③【学習カードを活用し，練習や反省に役立てる。】

OPPシート（１枚ポートフォリオ）を活用し，知識・技能の成長の様子やチームとの関わり方を見取るようにしていく。また，児童自身にもできるようになったことや思考の変化を実感させるようにしていきたい。学習カードには，いつでも児童が見ることができるように対話カードや本単元のめあてを載せた。そして児童が学習の流れがわかるように，１時間ごとに「気付いたこと・できたこと」を記入していくようにする。

手立て④【ルールの工夫により主体的に運動に取り組めるようにする。】

ゲームの方法は，従来のハンドボールで行われている攻守が入り交じったオールコートでのゲームではなく，２つのサークルの中に置いた段ボールを的とし，それをボールで狙う攻撃側と守備側に分かれて行う方法にする（攻撃側は守備側よりも一人多い）。オールコートのゲームでは，ボールを持った児童が，相手チームの児童に距離を詰められ，どうすればよいのか分からなくなってしまうことが考えられる。それに比べ，本単元で行うゲームの形は，攻撃側と守備側それぞれの場所が決まっており，児童が次の行動を行いやすく，児童が考える時間的余裕もできると考える。児童の実態に応じてゲームを簡易的にすることで，より活発に体を動かし，運動を楽しいと感じることへと繋がっていくだろう。

**ゲームの基本的なルール**

・ゲームで使用するボールの数は１つ。

・サークル中央にある段ボールを一つ落とすごとに＋１点

・全ての段ボールが落ちたら，攻撃側のチームを中心に積み直す。

・1分３０秒で攻守交代。（１分３０秒＋１分３０秒で１ゲーム）

・ゲームは攻める人３人。守る人２人。（ゲームをしない人はアドバイスをする）

・段ボールを倒したあとや，ディフェンスがボールを持ったあとなどのリスタート時は，パスをしないとシュートすることができない。

・ゲームのルールは，児童と確認しながら学習を進めていく。

〈特別支援学級在籍の児童への配慮〉

特別支援学級在籍児童のために，ほかの児童と特別なルールや支援の方法を考えて実施していくようにしたい。１年次から体育で試合をするときや競争するときなど，ほかの児童が特別ルールを決め，支援学級在籍児童も楽しんで参加できるようにしてきた。本単元でも，特別ルールを子どもたちと考えたり，支援をしたりしながらゲームを行い，全員が楽しんで学習することができるようしていきたい。

手立て⑤【単元の最後に大会を実施し，より主体的に活動できるようにする。】

単元最後にハンドボール大会を実施したい。児童が単元を通して上達した技能やチームで考えた作戦などを発揮できる場を設定したいと考える。また，児童は最後の大会のために，単元を通して主体的・意欲的に活動すると考えられる。

重点目標②「体育科における効果的な対話型授業の創造」に向けて

手立て①【対話カードの活用し，対話のポイントを押さえやすくする。】

授業最初に対話カードを活用して誰とどんな対話をするのかを明確にする。そうすることで授業中に児童が意識しながら活動するようになると考えられる。対話カードを効果的に使いながら，対話活動を充実させていきたい。

手立て②【アドバイスをするために，ゲームを落ち着いて見る機会をつくる。】

ゲームをしない人は，外からアドバイスをしたり声かけをしたりする。外からゲームを見ることで客観的に見ることができ，ゲームをしている人が気付かないことも気付くことができると考えられる。そのため，ゲームをしていない人もアドバイスをしながらしっかりとゲームを見て，作戦タイムの際に，気付いたことや作戦などを話し合うようにする。

手立て③【ミニホワイトボードを活用し，対話をしやすくする。】

ホワイトボードでチームの作戦や一人一人の動きが確認できるように，コートの図やマグネットを用意する。児童はそのホワイトボードを使って，作戦や動き方などを話し合うことができる。視覚的に動きを捉えることで，対話をより効率的に進めることができると考える。

４　単元の目標

1. 基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって，易しいゲームができるようにする

【知識及び技能】

1. 規則を工夫したり，ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに，考えたことを友だちに伝えることができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

1. 運動に進んで取り組み，規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，友だちの考えを認めたり，場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力・人間性等】

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に  学習に取り組む態度 |
| 1. ハンドボールを簡易化したゲームの基本的なルールを理解することができる。 2. パスやシュート，パスキャッチなどの基本的なボール操作をすることができる。 3. パスを受けやすい場所やシュートをしやすい場所に移動し，シュートをすることができる。 | 1. 友だちのよい動きを見つけたり，チームの力を伸ばすための方法について考えたりしながら，自分の考えを伝えている。 2. ボールを持たないときの動きを考え，どこに動いたらよりパスを受けてシュート機会をつくることができるかを友だちに伝えている。 3. みんなが楽しめる規則を考えている。 4. ゲームに合った作戦を考え，友だちに伝えている。 | 1. ルールやマナーを守り，友だちと協力しながら練習やゲームに進んで取り組んでいる。 2. 場の準備や片付けを友だちと一緒にしようとしている。 3. 場の安全に気をつけて運動をしている。 |

６　単元の構想

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | １ | ２ | ３ | ４ | ５（本時） | ６ | | ７ | ８ |
| 段階 | ステップ１ | ステップ２ | | | | ステップ３ | | | ステッ  プ４ |
| 本  単  元  の  学  習  過  程 | １ オリエンテーション  ・学習の進め方の確認  ・学習資料の確認  ・ハンドボールを知る  ２ ボールに慣れる運動  ３ 試しのゲーム  ４ 課題の共  　有 | 【ボールに慣れる運動】 | | | | | | | |
| 【作戦タイム】 | | | | | | | ハ  ン  ド  ボ  ￨  ル  大  会  た  け  み  ん  ピ  ッ  ク |
| 【キャッチの練習】 | 【チーム練習）】 | | | | 【チーム練習】  ・チームの作戦を，ゲーム形式で練習する。 | |
| 【ゲーム】  ・練習を活かして，他の色チームとゲームをする。 | | | | | | |
| 【動き方やコツなどの共有・上手くできたことやできなかったことの確認】  【作戦タイム】 | | | | | | |
| 【ゲーム】  ・前半のゲームを活かして後半のゲームをする。 | | | | | | |
| 【振り返りと反省】  ・学習カードの記入。 | | | | | | |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | 段  階 | 主なねらい（○）　学習活動（・） | 評価の観点・方法 | | |
| 知・技 | 思・判・表 | 態度 |
| １ | ス  テ  ッ  プ  １ | ○ハンドボールの学習の進め方を知る。  ・１時間の進め方・単元の進み方・学習カードなどの確認。  ○ハンドボールについて知る。  ・ハンドボールの基本的なルールややり方を理解する。  ○ボールに慣れる運動をする。  ○試しのゲームを行い，試合の仕方を知るとともに自分やチームに不足している課題を知る。 | ①観察 |  |  |
| ２ | ス  テ  ッ  プ  ２ | ○ボールを落とさずに捕ることができる。  ・ボールに慣れる運動。  ・様々なキャッチの仕方を練習する。  ・ボール運びゲームやパス回しゲームをする。 | ②観察 |  |  |
| ３ | ○パスをつなげることができる。  ・ボールに慣れる運動。  ・段ボール当てゲーム。  ・パス回しゲーム。  ・考えたことや練習したことをゲームの中で試していく。 |  | ①観察・  カード | ①観察・  カード |
| ４ |  | ③観察・  カード |  |
| ５  本時 | ○パスをもらうための動きを考える。  ・ボールに慣れる運動。  ・チームごと練習をする。  ・練習したことをゲームで試してみる。 | ③観察・カード |  |  |
| ６ | ス  テ  ッ  プ  ３ | ○チームの作戦を考える（攻め方・守り方）  ・ボールに慣れる運動。  ・チームごと作戦（攻め方・守り方）を考える。  ・チームごと練習  ・ゲームを行う。 |  | ②観察・  カード |  |
| ７ |  | ④観察・  カード | ②観察 |
| ８ | ス  テ  ッ  プ  ４ | ○今までの学習の成果を生かし，ハンドボール大会（たけみんピック）をする。  ・ボールに慣れる運動  ・ゲーム１　・ゲーム２  ・チームごと反省。作戦の見直し。  ・ゲーム３　・ゲーム４  ・ハンドボールのまとめ。 |  |  | ③観察・  カード |

７　本時の展開

（１）日時　令和２年１１月１７日（火）５校時

（２）場所　北杜市立長坂小学校　体育館

（３）本時の目標

○パスを受けやすい場所やシュートのしやすい場所に移動し，パスを受けたりシュートをしたりすることができるようにする。

【知識及び技能】

◎ボールを持たないときの動きについて考え，どこに動いたらよりパスを受けてシュート機会をつくることができるかを友だちに伝えることができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

（４）準備

〈教師の準備〉ボール・段ボール（シュートターゲット）・タイマー・笛

〈児童の準備〉色帽子・学習カード・筆記用具

（５）本時の指導意図

　本時の指導では，初めにウォーミングアップ（基礎感覚づくり）も兼ねてボールに慣れる運動を行う。ボールに慣れる運動は単元を通して行っているもので，ボールのキャッチ，スローなど，ボール運動に欠かすことができない基本的な技能を身につけることを目標としている。本時においても短い時間ではあるが，ボールを使った運動をしながら，児童がボール操作に慣れていけるようにしていく。

　児童は前時までの中でパスすることのよさや様々なパスの仕方，パス練習など学習してきている。しかし，ディフェンスが目の前にいる中でパスをもらうのは難しく，パスができたとしてもディフェンスが前にいるのでシュートを打つのが難しい。そこで本時では，「パスをもらうための動き」を考えさせ，ディフェンスがいない場所に動くとパスがもらいやすくなり，シュートチャンスが増えることに気付かせるようにしたい。そのために，本時の展開で前時までのゲームをしている動画を見直したり，パスが繋がらなかったことを思い出させたりする中で，「パスをもらうための動き」について着目させるようにしていく。

　作戦タイムでは，チームの中で「パスをもらうための動き」について話し合わせるようにする。また，話し合ったことがゲームの中で生かせるように，練習のときに２回，前半のゲームが終わったときの１回，計３回作戦タイムの時間を設定した。前半のゲームは，練習したことや話し合ったことを基にゲームを行い，後半のゲームは，前半のゲームでの反省や作戦タイムで話し合ったことを基にゲームを行うようにする。

（６）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 学習活動 | 指導上の留意点  （・指導，○評価基準，◎手立て，☆特・支） |
| つ  か  む  ８  分 | １　集合・整列・挨拶をする。  ２　基礎感覚づくりを行う。  （ボールに慣れる運動）  【２人で】  ・ワンバンパス・片手パス  ３　本時の流れ・学習課題を確認する。  パスをもらうための動きを考えよう  ４　パスをもらうための動きを考える。  ・ディフェンスのいない場所に動く。  ・ボールを持っている人の近くに行ってあげる。  ・手を挙げる。  ５　対話カードを使って，本時の対話方法を確認する。  ・対話カード⑤「アドバイスをする」 | ・ペアで１つボールを持ち，基礎感覚づくりの場所に集合・整列・挨拶を行わせる。  ・それぞれ５秒～１０秒練習。  ・ボールは２人で１つ使用する。  ◎様々な投げ方や捕り方を練習し，ボール操作に慣れるようにする。  （重点目標①手立て①）  ・前時までのゲームをしている動画を見直したり，パスが繋がらなかったことを思い出させたりする。  ・本時では，特にパスのもらいやすい場所に動くことを意識させるようにする。  ◎対話カードの中から教師が１つ指定し，授業中意識させるようにする。（重点目標②手立て①） |
| 展  開  考  え  る  ９  分 | ６　作戦タイム  ・パスをもらうために，自分で取り組むことやチームで取り組むことなどを話し合う。  ６　課題学習（チームごとに練習）  ・色ごとに，攻め・守りに分かれて，攻めるチームがボール回しをする。  ・３０秒で攻守交代。  （３０秒＋３０秒で１セット）  ・全員ができるように２セット行う。  ・１セット目と２セット目の間に作戦タイムを行う。  ・シュートターゲットは置かない。 | ◎チームごとに，パスをもらうための動きについて，作戦を考えたりホワイトボードを使って確認したりする。（重点目標②手立て③）  ☆チームの作戦の内容を，ホワイトボードで個別に説明する。  ○【思考・判断・表現】パスをもらうための動きについて考え，どこに動いたらよりパスを受けてシュート機会をつくることができるかを友だちに伝えている。  （観察・カード）  ・「パスをもらうための動き」を意識しながら練習を行わせる。  ・作戦タイムは実際に動いてみてどうだったのかを話し合わせるようにする。 |
| 深  め  る  ２  ０  分 | ７　発展学習（ゲーム）  ・ゲーム１（２分×２）  ・ゲーム２（２分×２）  【ルール】  ・３vs２　・４面のコートで行う  ・１分３０秒で攻守交代  （１分３０秒＋１分３０秒で１ゲーム）  ・ボールは１つ　・段ボールを落とすごとに＋１点  ・リスタート時は，パスをしないとシュートできない。  ８　動き方やコツなどを全体で確認する。  ９　作戦タイム  10　ゲーム３  ・ルールはゲーム１・２と同じ。 | ・全員で場の設定をする。  ・本時は特に「パスをもらうための動き」，特に「ディフェンスのいない場所に動く」ことを意識するよう声をかける。  ☆遠くへ転がり，拾いきれなかったボールの補助をする。  ◎見ている人はアドバイスをしたり声かけをしたりする。  （重点目標②手立て②）  ○【知識・技能】パスを受けやすい場所やシュートをしやすい場所に移動し，パスを受けたりシュートをしたりできる。  （観察・カード）  ・よい動きを取り挙げたり，上手くできたことやできなかったことを全体で確認したりする。  ・ゲームの反省や動き方などについて話し合いをする。  ・話し合いの視点（パスをもらうための動き）を伝え，何について話し合うのかを明確にする。  ・前半のゲームや作戦タイムを活かして後半のゲームに取り組ませる。 |
| ま  と  め  る  ８  分 | 11　片付け  12　学習の振り返り  ・学習カード記入。  ・全体で「パスをもらうための動き」について気付いたことやよかったことなどを発表する。  13　集合・整列・挨拶をする。 | ・協力して片付けをさせる。  ◎振り返りをしながら，今日気づいたことやできたことを学習カードに書くようにする。  （重点目標①手立て③） |

（７）評価

○パスを受けやすい場所やシュートをしやすい場所に移動し，パスを受けたりシュートをしたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【知識・技能③】

◎ボールを持たないときの動きについて考え，どこに動いたらよりパスを受けてシュート機会をつくることができるかを友だちに伝えている。

【思考・判断・表現②】

８　学習資料

1. 学習カード（別紙）
2. 場の設定

【チーム練習】

タイマー

黄組練習場所

赤組練習場所

ス

テ

｜

ジ

６m

緑組練習場所

青組練習場所

３.５m

入口

【ゲーム】

**Ｂ**

**Ａ**

見ている人

タイマー

ス

テ

｜

ジ

見ている人

**Ｂ**

**Ａ**

**Ａ**

**Ｂ**

見ている人

見ている人

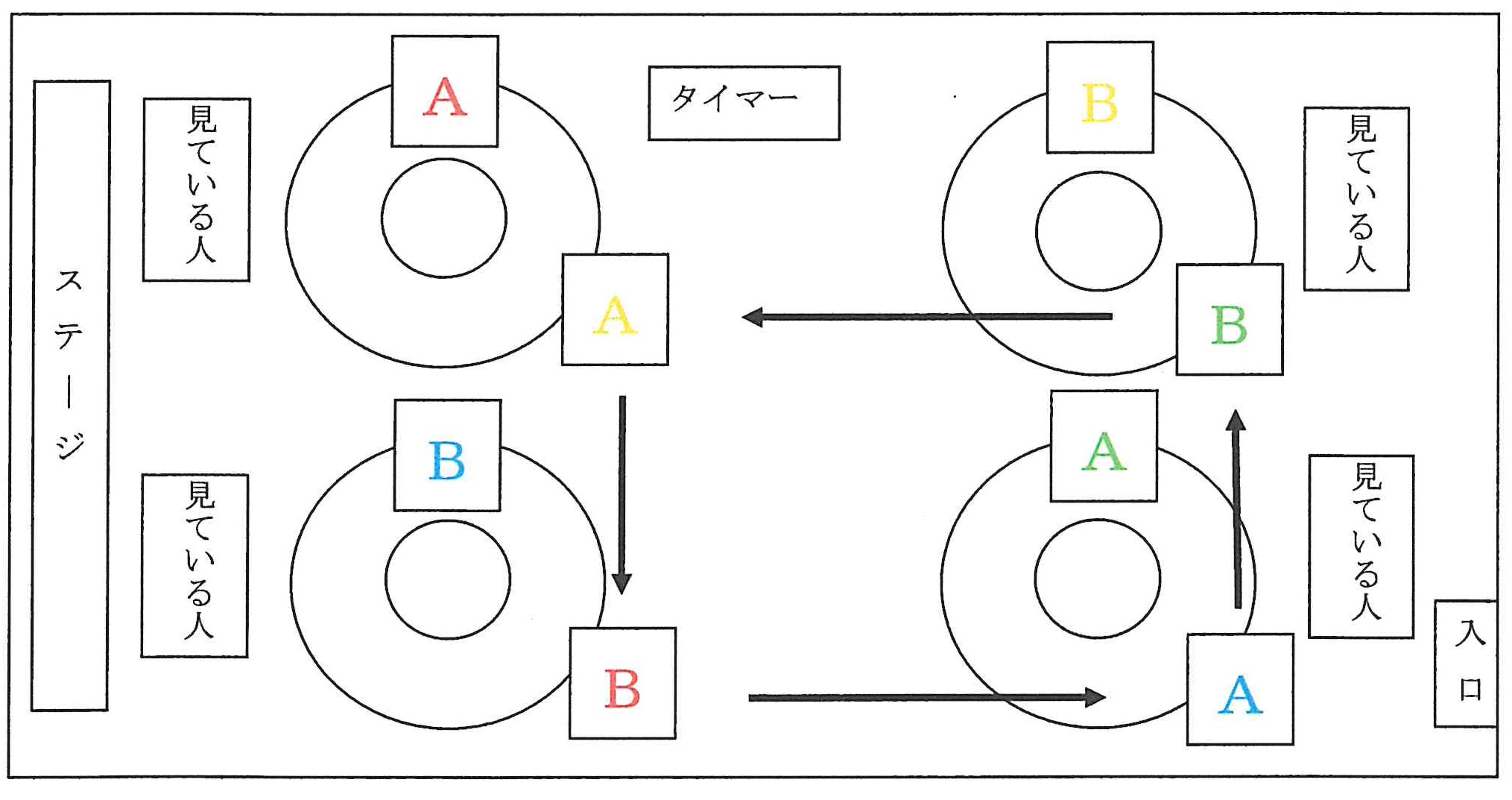
**Ａ**

**Ｂ**

入口

（３）板書計画

１１月１７日　　わたして，もらって，ねらえ！ターゲット！



学習課題

パスをもらうための

動きを考えよう

